

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 28 年 2 月 7 日 13 時 00 分 ~ 15 時 00 分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 69 問で解答時間は正味 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

(1) (例 1)、(例 2)の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

(例 2) 102 医師法で医師の義務とされているのはどれか。2 つ選べ。

- a 守秘義務
- b 応招義務
- c 診療情報の提供
- d 臨床研修を受ける義務
- e 医療提供時の適切な説明

(例 1)の正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

(例 2)の正解は「b」と「d」であるから答案用紙の **(b)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
102	(a)	●	(c)	●	(e)

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	(a)
(b)	●
(c)	→ (c)
(d)	●
(e)	(e)

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、

(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d へき地で勤務する義務
- e 臨床研修を受ける義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「e」であるから答案用紙の (a) と (c) と (e)

をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
103	●	(b)	●	(d)	●

↓

答案用紙②の場合、

103	103
(a)	●
(b)	(b)
(c) →	●
(d)	(d)
(e)	●





- 1 腎移植の急性拒絶反応で正しいのはどれか。
- a 血小板が減少する。
  - b 移植腎が腫大する。
  - c 移植腎の血流が上昇する。
  - d 移植後6時間以内に起きる。
  - e ドナーのClass I抗原に対するレシピエントの抗体が関与する。

- 2 物品の写真(別冊No. 1 ①～⑤)を別に示す。

外来で1歳2か月の男児に尿検査を実施するときに必要なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



- 3 頸髄損傷によって第6頸髄レベル以下の機能が完全に障害されている患者のリハビリテーションで正しいのはどれか。

- a 自己導尿の方法を指導する。
- b ズボンの脱衣動作法を指導する。
- c 長下肢装具を用いて歩行訓練を行う。
- d 食事動作のための自助具の使用訓練を行う。
- e プッシュアップによる車椅子移乗訓練を行う。

4 胃から吸収されるのはどれか。

- a 鉄
- b 葉酸
- c 脂肪酸
- d エタノール
- e グルコース

5 急性腎不全で血液透析を行うべき検査値はどれか。

- a 血清尿酸 10 mg/dL
- b 血清尿素窒素 38 mg/dL
- c 血清カリウム 7.0 mEq/L
- d 動脈血  $\text{HCO}_3^-$  20 mEq/L
- e 血清クレアチニン 1.8 mg/dL

6 頭部造影 MRI(別冊No. 2 ①～⑤)を別に示す。

右側の視神経萎縮と嗅覚脱失、左側のうっ血乳頭をきたしている患者のMRI像はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



7 地域の保健・医療・福祉・介護について正しいのはどれか。

- a 主治医の意見は要介護認定に影響しない。
- b 地域包括支援センターは在宅医療を提供する。
- c 介護老人保健施設は居宅サービスの一つである。
- d 調剤薬局の薬剤師は訪問指導をしてはいけない。
- e 訪問看護ステーションへの指示書は医師が作成する。

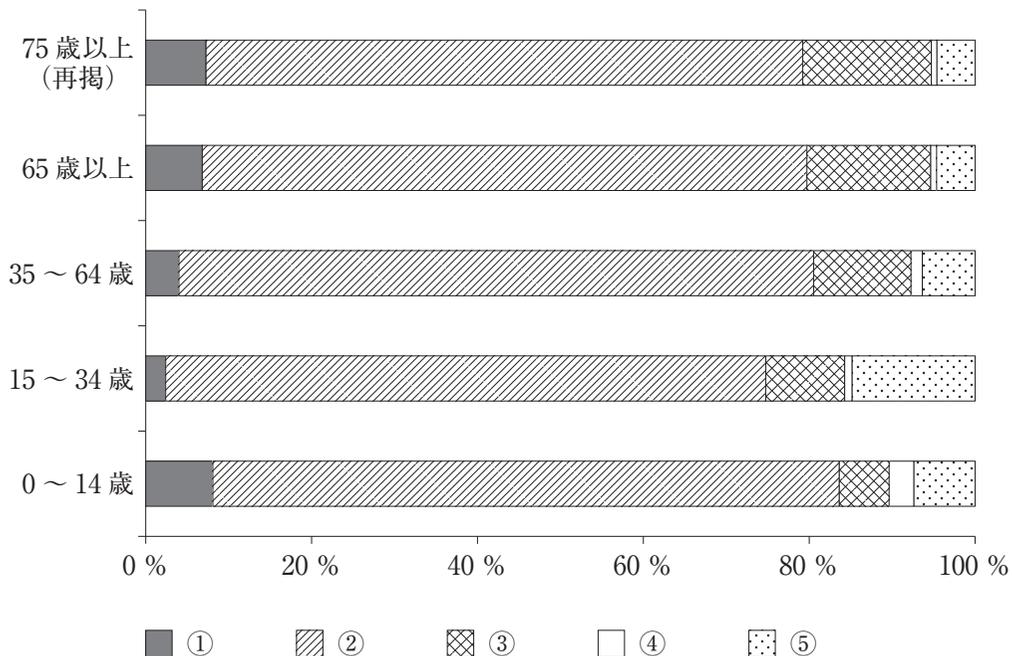
8 微小粒子状物質のうちPM 2.5について正しいのはどれか。

- a 肺胞まで到達する。
- b 炎症を起こさない。
- c 2.5 ng 以下の物質をいう。
- d たばこの煙には含まれない。
- e 大気中濃度の季節変動は小さい。

9 司法解剖について誤っているのはどれか。

- a 根拠法は死体解剖保存法である。
- b 捜査上の鑑定のために行われる。
- c 死因が明らかであっても行われる。
- d 犯罪の可能性のある場合に行われる。
- e 裁判所の許可(鑑定処分許可状)の下に行われる。

10 厚生労働省の患者調査(平成23年)における「年齢階級別にみた入院(重症度等)の状況別推計入院患者の構成割合」の図を示す。



「受け入れ条件が整えば退院可能」な患者を示すのはどれか。

ただし、「受け入れ条件が整えば退院可能」とは退院は決まっていないが退院可能な状態にあることをいう。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

- 11 悪性腫瘍に対する放射線治療について誤っているのはどれか。
- a 粒子線は深部でブラッグピークを形成する。
  - b ガンマナイフで治療できる脳転移の数には上限がある。
  - c 治療後の二次発がんのリスクは小児より高齢者で高い。
  - d 外科手術の適応がある肺癌に対しても根治的治療が行われる。
  - e 頭頸部癌の強度変調放射線治療(IMRT)は耳下腺の防護に有効である。

- 12 3か月前に転倒し左肩を打撲後、左肩運動時痛と夜間痛が持続している72歳の男性。この男性の左肩関節MRIのT2強調冠状断像(別冊No. 3)を別に示す。診断として最も疑われるのはどれか。

- a 腱板断裂
- b Bankart 損傷
- c 上腕骨骨嚢腫
- d 肩関節後方脱臼
- e 肩関節ガングリオン

別 冊

No. 3

- 13 疾患と尿所見の組合せで正しいのはどれか。
- a Alport 症候群 ————— 尿潜血反応陰性
  - b 微小変化群 ————— 尿潜血反応陽性
  - c 糖尿病腎症 ————— 肉眼的血尿
  - d IgA 腎症 ————— 尿中変形赤血球
  - e 膀胱炎 ————— 赤血球円柱

- 14 産業医の職務として法令に規定されていないのはどれか。
- a 衛生教育
  - b 作業の管理
  - c 労働者の健康管理
  - d 作業環境の維持管理
  - e 採用を判断するための健康診断
- 15 発汗について正しいのはどれか。
- a エクリン汗管は毛嚢に開口する。
  - b アポクリン腺は掌蹠に分布する。
  - c アポクリン腺は断頭分泌により発汗する。
  - d エクリン腺発汗量は性ホルモンにより調節される。
  - e エクリン腺による発汗はアドレナリン作動性である。
- 16 規定されている内容とその根拠法の組合せで正しいのはどれか。
- a 介護福祉士の資格 ————— 介護保険法
  - b 施設内の分煙の推進 ————— 地域保健法
  - c 母子健康手帳の交付 ————— 母体保護法
  - d 特別養護老人ホームの設置 ————— 高齢者医療確保法
  - e 医療安全支援センターの役割 ————— 医療法

17 平成 24 年(2012 年)の年齢階級別の主な死因の構成割合(別冊No. 4)を別に示す。

①で示すのはどれか。

- a 自殺
- b 心疾患
- c 悪性新生物
- d 脳血管疾患
- e 不慮の事故

別 冊

No. 4

18 摂食量の低下が持続した際に血液中の濃度が上昇するのはどれか。

- a 尿素窒素
- b ケトン体
- c インスリン
- d アルブミン
- e トリグリセリド

19 手段的日常生活動作(IADL)に含まれるのはどれか。

- a 更衣
- b 排泄
- c 移動
- d 服薬管理
- e 認知機能

- 20 III型アレルギーによる疾患はどれか。
- a 蕁麻疹
  - b 水疱性類天疱瘡
  - c アトピー性皮膚炎
  - d アレルギー性接触皮膚炎
  - e Schönlein-Henoch 紫斑病
- 21 平成元年(1989年)と比較した平成25年(2013年)の我が国の人口動態で正しいのはどれか。
- a 婚姻数は増加している。
  - b 出生率は上昇している。
  - c 粗死亡率は低下している。
  - d 乳児死亡率は上昇している。
  - e 年齢調整死亡率は低下している。
- 22 肝移植の適応でないのはどれか。
- a 肝硬変
  - b 劇症肝炎
  - c 肝内胆管癌
  - d 胆道閉鎖症
  - e 原発性硬化性胆管炎

- 23 地域保健について正しいのはどれか。
- a 婦人相談所は家庭内暴力を契機に設置された。
  - b 保健所には必ず医師を置かなければならない。
  - c 地方衛生研究所は地域保健法に基づき設置されている。
  - d 市町村保健センターは伝染病の予防のために設置されている。
  - e 町村は地域保健対策を円滑に実施するための人材の確保又は資質の向上の支援に関する計画を定める。
- 24 社会福祉に関する法律とその内容の組合せで誤っているのはどれか。
- a 児童福祉法 ————— 児童手当の支給
  - b 障害者福祉法 ————— 身体障害者手帳の交付
  - c 生活保護法 ————— 葬祭に必要な費用の支給
  - d 母子保健法 ————— 小児慢性特定疾病の医療費助成
  - e 老人福祉法 ————— 在宅福祉サービスの提供
- 25 痛風で制限すべきなのはどれか。
- a 胡椒
  - b 食塩
  - c レバー
  - d コーヒー
  - e マーガリン

26 肺腺癌において上皮成長因子受容体(EGFR)の遺伝子変異と強く関連する因子はどれか。

- a 男性
- b 日本人
- c 喫煙者
- d 飲酒歴
- e 家族歴

27 昨年、母が乳癌で亡くなり、1か月前に姉(25歳)も乳癌と診断され、心配で受診した22歳の女性。視触診と乳房超音波検査で異常を認めなかったが、不安を訴えている。

対応として推奨されるのはどれか。

- a 乳房造影CT
- b 全身FDG-PET
- c 予防的乳房切除術
- d 遺伝カウンセリング
- e  $^{67}\text{Ga}$ シンチグラフィ

28 帝王切開の絶対的適応となるのはどれか。

- a 骨盤位
- b 微弱陣痛
- c 不正軸進入
- d 軟産道強靱
- e 児頭骨盤不均衡

- 29 胎児発育について正しいのはどれか。
- a 妊娠 20 週以前には四肢の運動を認めない。
  - b 妊娠 32 週以前には呼吸様運動を認めない。
  - c 妊娠 36 週以前には一過性頻脈を認めない。
  - d 妊娠 32 週に比べ正期産期には胎脂の量が減少する。
  - e 妊娠 32 週に比べ正期産期には身体全体に占める頭部の比率が増加する。
- 30 心音のⅡ音について正しいのはどれか。
- a 高血圧症では亢進する。
  - b 心嚢液貯留では亢進する。
  - c 完全左脚ブロックでは生理的分裂を認める。
  - d 肺動弁狭窄症〈PS〉では奇異性分裂を認める。
  - e 心房中隔欠損症〈ASD〉では病的分裂を認める。
- 31 感染症法に基づく入院勧告の対象はどれか。
- a 麻疹
  - b コレラ
  - c ポリオ
  - d デング熱
  - e 日本脳炎

32 基礎疾患を有さない成人の生化学データを示す。

採血時の溶血を示唆するのはどれか。

	AST (IU/L)	ALT (IU/L)	LD (IU/L) (基準 176~353)	$\gamma$ -GTP (IU/L) (基準 8~50)	Na <sup>+</sup> (mEq/L)	K <sup>+</sup> (mEq/L)
a	30	56	200	36	152	4.0
b	30	56	200	62	137	4.0
c	30	56	200	62	137	6.0
d	48	16	420	36	137	6.0
e	48	16	420	62	137	4.0

33 被保険者とその医療保険制度の組合せで正しいのはどれか。

- a 30歳 民間企業従業員 ———— 共済組合
- b 40歳 自営業 ————— 国民健康保険
- c 50歳 公務員 ————— 協会けんぽ
- d 60歳 大学教員 ————— 組合管掌健康保険
- e 70歳 年金受給者 ————— 後期高齢者医療制度

34 QT 延長に注意すべき抗菌薬はどれか。2つ選べ。

- a セフェム系
- b ペニシリン系
- c マクロライド系
- d ニューキノロン系
- e アミノグリコシド系

35 外毒素がショックの原因となるのはどれか。2つ選べ。

- a 腸球菌
- b 緑色連鎖球菌
- c 表皮ブドウ球菌
- d 黄色ブドウ球菌
- e A群 $\beta$ 溶血性連鎖球菌

36 上部消化管の内視鏡像(別冊No. 5 ①～⑤)を別に示す。

経口による内視鏡治療の適応となるのはどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



37 ヒト免疫グロブリンとその特徴の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a IgA ———— 胎盤通過性を有する。
- b IgD ———— 5量体を形成する。
- c IgE ———— III型アレルギーに関与する。
- d IgG ———— 4つのサブクラスがある。
- e IgM ———— 感染早期に産生される。

- 38 生後1か月の健常乳児の所見で正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 引き起こしで頭部の立ち直りを認める。
  - b 覚醒時の自発運動が乏しい。
  - c 四肢の関節は伸展している。
  - d 手を固く握りしめている。
  - e Moro反射が出現する。
- 39 胎児期から出生直後にかけての循環生理で正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 臍帯静脈血は臍帯動脈血より酸素分圧が低い。
  - b 胎児期の静脈管の血流は左心房に流入する。
  - c 胎児期の卵円孔の血流は右心房から左心房に流入する。
  - d 出生後に肺血管抵抗は急速に上昇する。
  - e 出生後に動脈管の収縮は血中酸素分圧の上昇に反応して起こる。
- 40 低血糖時に血中濃度が上昇するホルモンはどれか。3つ選べ。
- a グルカゴン
  - b アドレナリン
  - c コルチゾール
  - d バソプレシン
  - e 副甲状腺ホルモン

41 台風の影響で大雨特別警報が発表された。これまでに経験したことのないような大雨となっており、土砂崩れや浸水による重大な危険が差し迫った異常事態である。市町村は、河川の水位の上昇に伴い、避難指示を発表した。地域の住民約 50 人は指定避難所に避難し、台風が通過し雨がやみ河川の水位が低下するまで避難生活をするようになった。

避難所で住民の健康を維持するために最も優先すべきなのはどれか。

- a 手指衛生
- b 予防接種
- c 嗜好品確保
- d 毎日の血圧測定
- e 公衆無線 LAN 環境の整備

42 41歳の女性。尿路感染症の治療のため入院中である。5日前に38.3℃の発熱で外来を受診した。左の肋骨脊柱角に叩打痛があり、尿検査で白血球が増加しGram陰性桿菌を認めた。即日入院となり、セフェム系抗菌薬の静脈内投与を開始した。入院3日目に一旦解熱したが、入院4日目から再び38.5℃の発熱が出現した。このときは肋骨脊柱角に叩打痛を認めなかった。尿沈渣に白血球を認めず、血液検査にも異常を認めなかった。入院5日目に38.2℃、入院6日目の本日も38.6℃の発熱を認めている。体温は一旦37℃前後に下がるが抗菌薬投与後に38℃以上に上昇することを繰り返している。比較的元気な様子で食欲も良好である。意識は清明。体温38.5℃。脈拍72/分、整。血圧122/76 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。皮疹を認めない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭に発赤や滲出液を認めない。項部硬直を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。左右の肋骨脊柱角に叩打痛を認めない。血液所見：赤血球460万、Hb 13.8 g/dL、Ht 39%、白血球8,600(桿状核好中球21%、分葉核好中球45%、好酸球12%、好塩基球1%、単球5%、リンパ球16%)、血小板20万。血液培養は陰性。胸部エックス線写真で異常を認めない。腹部超音波検査で肝膿瘍などの異常を認めない。

現時点の対応として最も適切なのはどれか。

- a 抗菌薬を中止する。
- b 抗真菌薬を追加する。
- c 副腎皮質ステロイドを追加する。
- d 抗菌薬をカルバペネム系に変更する。
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)を追加する。

43 20歳の女性。声が出なくなったことを主訴に友人とともに来院した。今朝、いつもどおりに大学に行ったが、1限目の講義が終了したところから声がかすれるようになり、1時間後には全く声が出なくなった。友人とともに保健管理室で相談したところ、医療機関へ行くことを勧められたため受診した。1年前から部活動での人間関係のトラブルを契機として、不安感や情動の不安定性が出現し治療を受けていた。受診時、筆談は可能で理解力は保たれ、意識は清明と考えられた。発声できないこと以外に神経学的所見に異常を認めない。血液生化学所見、脳波および頭部CTで異常を認めない。

この患者にみられるのはどれか。

- a 解離
- b 転換
- c 離人症
- d 被影響体験
- e させられ〈作為〉体験

44 68歳の男性。食べ物が飲み込みにくいことを主訴に来院した。2か月前から、食事の際にむせやすくなり、最近、重い物が持ちにくくなったため受診した。65歳ころから自宅近くの診療所で高血圧症の治療を受けている。意識は清明。身長172 cm、体重68 kg。体温36.4℃。脈拍88/分、整。血圧146/82 mmHg。眼球運動に異常を認めない。舌に軽度の萎縮と線維束性収縮とを認める。徒手筋力テストで頸部前屈筋群4、三角筋4である以外は正常で、握力は右28 kg、左24 kgである。腱反射は上下肢ともに軽度に亢進している。血液生化学所見に異常を認めない。上腕二頭筋で施行した安静時の針筋電図(別冊No. 6)を別に示す。

針筋電図で認められるのはどれか。

- a 時間的分散
- b 多相性電位
- c 脱神経電位
- d 伝導ブロック
- e ミオトニー放電

別冊  
No. 6

45 30歳の初妊婦。妊娠35週。胎動減少を主訴に来院した。妊娠33週までの妊婦健康診査では特に異常を認めなかった。10日前から持病の腰痛のため毎日非ステロイド性抗炎症薬を含有した市販薬(貼付薬と内服薬)を使用していた。昨日から胎動が少ないという。胎児心拍数陣痛図では胎児心拍数基線は140/分で正常な基線細変動を認めるが、一過性頻脈は認めない。腹部超音波検査を開始したが、胎盤や羊水量に異常を認めない。

超音波検査で注意して観察すべき胎児の部位はどれか。

- a 脳
- b 肺
- c 肝臓
- d 動脈管
- e 消化管

46 46歳の男性。全身のしびれと悪心とを主訴に来院した。初夏のある朝、朝食にアサリの味噌汁、焼魚および山菜を食べた。アサリと魚は汽水域で採ったもの、山菜は近くの山野で採取したものである。食べて10分後に口唇がしびれるのを感じ、20分後にはしびれが全身に広がり悪心も生じたため朝食後40分して受診した。一緒に食事をした妻も口唇のしびれを訴えている。来院時、意識は清明。体温36.0℃。脈拍84/分、不整。血圧116/70 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。顔面と四肢とに知覚異常がある。瞳孔径は両側6 mmで、対光反射は正常。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音はやや亢進している。胸部エックス線写真で異常を認めない。心電図モニターで心室性期外収縮が観察されている。

優先すべき処置はどれか。

- a 胃洗浄
- b 酸素吸入
- c 抗菌薬投与
- d 全身の除染
- e アドレナリン投与

47 42歳の女性。臭いがわかりにくいことを主訴に来院した。半年前から臭いがわかりにくくなり、また両側の鼻閉も出現してきたため受診した。左鼻腔内視鏡写真(別冊No. 7A)と副鼻腔CT(別冊No. 7B)とを別に示す。

この患者で注意すべき合併症はどれか。

- a 肺気腫
- b 肺化膿症
- c 気管支喘息
- d 特発性肺線維症
- e アレルギー性気管支肺アスペルギルス症

別 冊

No. 7 A、B

48 25歳の男性。水様性鼻汁と目の痒みとを主訴に来院した。2月中旬から水様性鼻汁、くしゃみ及び目の痒みが出現するようになり、3月上旬から症状が増悪したため受診した。3年前から同様の症状を2月中旬から4月にかけて認めていた。症状は外出時に増悪する。体温36.5℃。眼球結膜の充血を認める。咽頭に発赤を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。

この患者の病態として正しいのはどれか。

- a 補体の低下を認める。
- b IV型アレルギーである。
- c IgM抗体が関与している。
- d 鼻汁中に好酸球が増加する。
- e マクロファージが関与している。

49 61歳の女性。尿失禁を主訴に来院した。3年前から遺伝性脊髄小脳変性症で治療を受けている。2か月前から突然の尿意を伴わない尿失禁が出現したため受診した。くしゃみでは尿は漏れない。意識は清明。構音障害、協調運動障害および失調性歩行がある。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。尿所見：蛋白(－)、糖(－)、沈渣に赤血球1～4個/1視野、白血球1～4個/1視野。腹部超音波検査で残尿を認めない。

考えられる尿失禁の種類はどれか。

- a 溢流性
- b 機能的
- c 切迫性
- d 反射性
- e 腹圧性

50 45歳の男性。夜盲を主訴に来院した。10年前から両眼の夜盲を自覚していたが徐々に進行してきたため受診した。両眼の眼底写真(別冊No. 8A)と網膜電図(別冊No. 8B)とを別に示す。

右眼の視野検査の結果(別冊No. 8C①～⑤)のうち、この患者の視野はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊 No. 8 A、B、C①～⑤
-----------------------

51 38歳の男性。人間ドックで血糖値と肝機能検査値の異常を指摘されたため来院した。自覚症状はない。職業はデスクワーク中心の会社員で通勤は自家用車を使用している。2年前の健康診断から高血糖を指摘されていたがそのままにしていた。既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。飲酒歴と喫煙歴はない。身長170 cm、体重82 kg。脈拍72/分、整。血圧168/94 mmHg。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液生化学所見：AST 42 IU/L、ALT 68 IU/L、クレアチニン0.6 mg/dL、血糖138 mg/dL、HbA1c 6.9% (基準4.6~6.2)、総コレステロール250 mg/dL、トリグリセリド140 mg/dL、HDL-コレステロール40 mg/dL。

この患者に対する食事療法の方針で適切なのはどれか。

- a 塩分の摂取量は10 g/日未満とする。
- b 総エネルギー量は2,200 kcal/日とする。
- c 食物繊維の摂取量は20 g/日以上とする。
- d コレステロールの摂取は3 g/日未満とする。
- e 蛋白質の割合は総エネルギー量の50%とする。

52 20歳の女性。昨日、第1子を分娩し入院中である。搾乳した母乳が白色ではなく、淡黄色であることを心配している。妊娠40週3日、2,800 gの女児を正常経膈分娩した。家族歴と既往歴とに特記すべきことはない。発熱はない。乳房に発赤や圧痛はない。明らかな腫瘤を触知しない。

説明として適切なのはどれか。

- a 「乳癌の検査が必要です」
- b 「人工乳で育てた方が良いです」
- c 「細菌培養検査で乳腺炎の確認をします」
- d 「出産後数日の母乳は淡黄色なのが普通です」
- e 「うづ乳の可能性があるので乳房マッサージが必要です」

53 1歳6か月の男児。定期健康診査で来院した。在胎40週、身長50cm、体重3,100g、正常分娩で出生した。歩行は可能だが三輪車には乗れない。積み木を2、3個積める。スプーンを使った一人での食事はできない。排尿したことを伝えない。人見知りをして、親から離れて遊ぶことができない。単語を数語話すが、二語文や自分の年齢は言えない。声かけにすぐ反応するが、簡単な命令に対する行動はなく、聞かれた絵を指で示せない。

発達として遅れているのはどれか。

- a 粗大運動
- b 微細運動
- c 協調運動
- d 対人関係
- e 言語発達

54 78歳の男性。悪心と腹痛とを主訴に来院した。腹痛は朝から生じ、徐々に右下腹部に移動し、増強してきたため受診した。身長160cm、体重54kg。体温37.8℃。脈拍92/分、整。血圧148/84mmHg。呼吸数20/分。腹部は平坦で、右下腹部に圧痛と反跳痛とを認める。血液所見：赤血球365万、Hb13.2g/dL、Ht35%、白血球12,100(桿状核好中球10%、分葉核好中球72%、好酸球1%、単球3%、リンパ球14%)、血小板19万。血液生化学所見：尿素窒素18mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL。CRP1.2mg/dL。腹部エックス線写真で異常を認めない。腹部超音波検査では腸管ガスのため所見は不明瞭であった。

次に行うべき検査はどれか。

- a PET/CT
- b 腹部造影CT
- c 腹部血管造影検査
- d カプセル内視鏡検査
- e 下部消化管内視鏡検査

55 50歳の男性。献血を希望して献血センターを訪れた。アフリカの森林で3か月間、鳥類の生態の研究を行ってきたが、その間に体調を崩すことはなかった。帰国後も健康上の問題はなく、帰国して5か月たってから献血センターを訪れた。アフリカ以外の国に滞在経験はない。担当医は感染症の可能性があるので献血はできないと説明した。

想定される感染症はどれか。

- a デング熱
- b マラリア
- c Chagas 病
- d エボラ出血熱
- e 変異型 Creutzfeldt-Jakob 病

56 47歳の男性。定期健康診断で高血圧症を指摘され産業医面談に訪れた。話をよく聞くと、2週前に右片麻痺と言語障害が出現したが、1時間後にはすべての症状が消失した。その後は症状がないためそのままにしていたという。このことは家族、会社には話していない。路線バスの運転手で、時々長距離ツアーバスの運転をしている。残業は月10時間程度である。定期健康診断の結果は以下のとおりである。身長170 cm、体重71 kg。血圧182/96 mmHg。血液所見：赤血球490万、Hb 14.8 g/dL。血液生化学所見：AST 15 IU/L、ALT 22 IU/L、 $\gamma$ -GTP 32 IU/L(基準8~50)、空腹時血糖132 mg/dL、総コレステロール211 mg/dL、トリグリセリド144 mg/dL、HDL コレステロール40 mg/dL。心電図と胸部エックス線写真で異常を認めない。

最も適切な指示はどれか。

- a 「今すぐ専門医に連れて行ってもらってください」
- b 「時間があるときに医療機関を受診してください」
- c 「出勤して良いですが運転はしないでください」
- d 「今までどおり勤務を続けて大丈夫です」
- e 「自宅で休んでください」

57 24歳の初妊婦。妊娠34週。これまで自宅近くの診療所で妊婦健康診査を受けていた。交通外傷のため救急車で搬入された。出血性ショックがあり、血液型判定結果を待たずに緊急輸血を行うことになった。携帯していた母子健康手帳によると、血液型はA型RhD(+)、不規則抗体(-)である。

輸血開始時の赤血球液LRと新鮮凍結血漿LRの組合せで適切なのはどれか。

- |   | 赤血球液 LR |       | 新鮮凍結血漿 LR |
|---|---------|-------|-----------|
| a | A 型     | ————— | A 型       |
| b | A 型     | ————— | O 型       |
| c | AB 型    | ————— | O 型       |
| d | O 型     | ————— | A 型       |
| e | O 型     | ————— | AB 型      |

58 23歳の男性。バイクを運転中に転倒して頭部を受傷したため救急車で搬入された。意識は清明。体温36.6℃。脈拍100/分、整。血圧130/80 mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub>99%(room air)。胸部と腹部とに異常を認めない。右側頭部を強打しており右外耳からの出血がある。血液検査と尿検査とに異常を認めない。頭部CTで内耳道に達する側頭骨骨折と気脳症とを認める。

出現が予想される症状はどれか。2つ選べ。

- a 嘔 声
- b 複 視
- c 難 聴
- d 髄液漏
- e 顔面の知覚低下

59 生後4か月の乳児。心肺停止状態で救急車で搬入された。2時間前の授乳時は元気で、特に気になる様子はなかったという。授乳後すぐ眠ったので母親は家事をしていたが、気が付くと全身がチアノーゼを呈して反応がないため救急車を要請した。1週前の乳児健康診査では特に問題を指摘されていない。来院時は体温34.4℃で、視診では栄養状態は良好で外傷を認めなかった。心肺蘇生に全く反応せず、死亡を確認した。解剖では頭蓋内出血を含め死因を特定できるような異常所見は認めなかった。

想定される疾患のリスクファクターはどれか。3つ選べ。

- a 母乳栄養
- b 仰向け寝
- c 母親の喫煙
- d 柔らかい寝具
- e 厚着による高温環境

60 23歳の女性。月経予定日を3日過ぎて月経が発来しないので来院した。月経周期は28日型、整。尿妊娠反応は陰性であった。この妊娠判定試薬は排卵後14日以降の自然妊娠に対して100%が陽性を示すように作られている。

この時点で考えられるのはどれか。3つ選べ。

- a 進行流産
- b 排卵日の遅延
- c 卵管妊娠の破裂
- d 着床後早期の妊娠
- e 最終月経の記憶違い

次の文を読み、61～63の問いに答えよ。

72歳の男性。発熱と全身の倦怠感を主訴に来院した。

**現病歴** : 2か月前に37℃台の発熱があり、かかりつけ医から抗菌薬を処方された。7日後に解熱したが、倦怠感と食欲低下は持続していた。10日前から38℃台の発熱があり、再度かかりつけ医を受診した。抗菌薬と解熱薬とを処方されたが、発熱と倦怠感が持続するため受診した。

**既往歴** : 高血圧症と糖尿病で内服治療中。

**生活歴** : 一人暮らし。無職。喫煙は20本/日を50年間。飲酒はビール1,000～1,500 mL/日を50年間。

**家族歴** : 父親が胃癌で死亡。母親が大腸癌で死亡。

**現症** : 意識は清明。身長182 cm、体重90 kg。体温38.0℃。脈拍108/分、整。血圧138/80 mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 96 % (room air)。皮膚は乾燥している。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内は乾燥が著明である。頸静脈の怒張を認めない。表在リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸蠕動音は正常。肋骨脊柱角に叩打痛を認めない。下腿に浮腫を認めない。神経学的所見に異常を認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白1+、糖3+、ケトン体1+、潜血(－)、沈渣に白血球を認めない。血液所見：赤血球440万、Hb 15.1 g/dL、Ht 44%、白血球14,500 (桿状核好中球2%、分葉核好中球88%、好酸球0%、好塩基球0%、単球4%、リンパ球6%)、血小板32万、PT 87% (基準80～120)。血液生化学所見：総蛋白7.1 g/dL、アルブミン3.5 g/dL、総ビリルビン0.5 mg/dL、直接ビリルビン0.2 mg/dL、AST 57 IU/L、ALT 43 IU/L、LD 355 IU/L (基準176～353)、ALP 349 IU/L (基準115～359)、 $\gamma$ -GTP 109 IU/L (基準8～50)、アミラーゼ38 IU/L (基準37～160)、CK 76 IU/L (基準30～140)、尿素窒素38 mg/dL、クレアチニン1.1 mg/dL、尿酸9.0 mg/dL、血糖284 mg/dL、HbA1c 9.6% (基準4.6～6.2)、総コレステロール174 mg/dL、トリグリセリド179 mg/dL、Na 135 mEq/L、K 4.9 mEq/L、Cl 105 mEq/L。CRP 11 mg/dL。心電図で洞性頻脈を認める。胸部エックス線写真で異常を認めない。

**その後の経過** : 精査のため入院とし、腹部超音波検査で肝膿瘍を認めた。超音波ガイド下膿瘍穿刺吸引検査を行い、採取した穿刺液を培養検査に提出し、抗菌薬の投与を開始した。培養検査ではGram陽性球菌が検出された。

- 61 原因菌として可能性が高いのはどれか。2つ選べ。
- a メチシリン耐性黄色ブドウ球菌〈MRSA〉
  - b B群連鎖球菌〈GBS〉
  - c 緑色連鎖球菌
  - d リステリア
  - e 肺炎球菌
- 62 抗菌薬投与に加えて、早期に行うべき治療はどれか。2つ選べ。
- a 肝切除術
  - b 免疫グロブリン製剤投与
  - c 内視鏡的逆行性胆道ドレナージ
  - d 超音波ガイド下膿瘍穿刺ドレナージ
  - e インスリンによる血糖コントロール
- 63 治療が奏功し退院が計画された。ADLは自立しており、明らかな認知機能障害を認めないが、食事の準備と服薬管理とに問題がみられた。
- この患者の退院支援として適切なのはどれか。2つ選べ。
- a 運動器リハビリテーション
  - b 訪問入浴サービス
  - c 訪問薬剤管理
  - d 配食サービス
  - e 自宅改装

次の文を読み、64～66の問いに答えよ。

60歳の男性。胸部痛を主訴に来院した。

**現病歴** : 1か月前から持続性の右胸部痛が出現した。1週間前から息切れも自覚するようになった。自宅近くの医療機関を受診し、胸部エックス線写真で異常を認めため紹介されて受診した。

**既往歴** : 胃潰瘍の治療歴あり。

**生活歴** : 喫煙は20本/日を40年間。飲酒はビール350mL/日を40年間。

**家族歴** : 父親が糖尿病で治療中。

**現症** : 意識は清明。身長161cm、体重59kg。体温36.6℃。脈拍80/分、整。血圧126/82mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub>97%(room air)。心音に異常を認めない。呼吸音は右側で減弱している。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

**検査所見** : 血液所見：赤血球480万、Hb15.4g/dL、Ht44%、白血球8,500、血小板40万。血液生化学所見：総蛋白7.3g/dL、アルブミン3.0g/dL、総ビリルビン0.4mg/dL、AST25IU/L、ALT25IU/L、LD337IU/L(基準176～353)、ALP369IU/L(基準115～359)、 $\gamma$ -GTP60IU/L(基準8～50)、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、尿酸5.8mg/dL、血糖96mg/dL、Na140mEq/L、K4.2mEq/L、Cl105mEq/L、CEA1.7ng/mL(基準5以下)、CYFRA1.1ng/mL(基準3.5以下)、CA19-98.8U/mL(基準37以下)。CRP4.6mg/dL。胸部エックス線写真(別冊No. 9A)と胸部CT(別冊No. 9B)とを別に示す。

別冊

No. 9 A、B

64 診断のため追加して確認すべきなのはどれか。

- a 職業歴
- b 手術歴
- c 海外渡航歴
- d 歯科治療歴
- e ペット飼育歴

65 診断のため行うべき検査はどれか。

- a 心エコー
- b 胸腔穿刺
- c 呼吸機能検査
- d 気管支内視鏡検査
- e 上部消化管内視鏡検査

66 後日、胸腔鏡検査のため入院した。胸腔鏡検査における胸膜の写真(別冊No. 10)を別に示す。

みられる所見はどれか。

- a 膿瘍
- b 腫瘍
- c 嚢胞
- d 胸膜炎
- e 胸膜プラーク

別冊

No. 10

次の文を読み、67～69の問いに答えよ。

28歳の男性。墜落事故のため工事現場から救急車で搬入された。

**現病歴** : 建築作業中に誤って約3mの高さから墜落し、頭部を強打した。意識障害がみられ、救急搬送された。

**既往歴** : 生来健康で特記すべきことはない。

**生活歴** : 高校卒業後から建築作業員。独身。大酒家で喫煙歴は不明。

**家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 来院時、閉眼。身長170cm(推定)。体重70kg(推定)。体温36.4℃。脈拍48/分、整。血圧192/104mmHg。呼吸数12/分。SpO<sub>2</sub>92%(リザーバー付マスク10L/分酸素投与下)。左側頭部に皮下血腫を認める。瞳孔径両側3mmで対光反射は正常である。口腔、鼻孔および耳孔からの出血を認めない。他部位の創傷からの外出血はない。心音と呼吸音とに異常を認めない。痛み刺激で開眼し、発語は「あ～」「う～」の発声のみを認める。痛み刺激で手足の逃避的な屈曲を認める。

67 この患者の Glasgow Coma Scale(GCS)の M スコアはどれか。

- a 2
- b 3
- c 4
- d 5
- e 6

**検査所見** : 尿所見:蛋白(-)、糖(-)、血液所見:赤血球424万、Hb 13.8 g/dL、Ht 48%、白血球8,600、血小板21万。血液生化学所見:総蛋白7.2 g/dL、アルブミン4.0 g/dL、総ビリルビン0.6 mg/dL、AST 21 IU/L、ALT 28 IU/L、尿素窒素16 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、血糖85 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 102 mEq/L。CRP 1.2 mg/dL。動脈血ガス分析(リザーバー付マスク10 L/分酸素投与下):pH 7.20、PaCO<sub>2</sub> 64 Torr、PaO<sub>2</sub> 62 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 24 mEq/L。胸部エックス線写真と骨盤部エックス線写真とで異常を認めない。頭部単純CTで異常を認めない。

68 この患者に行うべきなのはどれか。

- a 人工換気
- b 抗菌薬投与
- c 脳室ドレナージ
- d 抗てんかん薬投与
- e 副腎皮質ステロイド投与

**その後の経過** : 翌日に撮影された頭部MRIのFLAIR像で脳梁を中心とした白質に小さな高信号領域の散在を認めた。受傷後4日目に開眼し、受傷後5日目には意識レベルはJCS I-1となった。リハビリテーションを進め自宅退院を目指すことになった。

69 退院後も長期に認められる可能性があるのはどれか。

- a 失調
- b 片麻痺
- c 嚥下障害
- d 排便障害
- e 行動障害









